

12 少子・高齢福祉社会対策特別委員会における奥田智子県議の質疑

2014年3月14日

Q. 奥田智子委員

1. 意欲の高い高齢者はよいが、引きこもった高齢者へ社会参加に向けた啓発活動はどうしているか。
2. 共助の取組を進めるとのことだが、「地域支え合いの仕組み」は、まだ未実施の市町村がある。その理由は何か。
3. シルバー人材センターはかなりの市町村にあると思う。働きたい人はかなりいると思うが、シルバー人材センターの登録者数に対して仕事の量を県はどう捉えているか。

A. 高齢介護課長

1. 意欲の高くない方の社会参加を促進するためには、身近なところでの取組が重要である。地域の老人クラブを活性化することも一つの取組である。また、介護保険制度の中でも、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支えるといった取組を進めることが市町村の役割に位置付けられる。身近な地域で社会参加や地域活動に参加できる仕組みづくりを県としても支援していく。

A. 共助社会づくり課副課長

2. 平成21年度から実施団体への補助を行うことにより積極的に支援している。地域商品券を利用した一石三鳥の効果を持つ仕組みとなっている。また、市町村によって、いろいろと事情があり未実施となっている。今後、実施に向けて取り組んでいきたい。

A. 就業支援課副課長

3. シルバー人材センターの仕事量については、平成24年度の実績をみると48,821人の方が登録されており、40,792人の方が就業している。割合にすると83.6%の方が就業している。

Q. 奥田委員

83.6%という割合は一見すると高いが、1回でも仕事に行けばカウントされるのではないか。「シルバー人材センターに登録しても仕事が来ない」という声も聞いている。

就業率はどういうふうに計算しているのか。

A. 就業支援課副課長

1回でも就業すれば、就業率にカウントされる。